

学校設定科目「実験動物」における 既存の知識を持ち寄り知識の幅を広げる授業の工夫 —視覚的効果やグループワークを活用して—

特別研修員 農業 小林豊（高等学校教諭）

【生徒の実態】

- ◆ **難しい学問として認識**
実験動物を難しいものと捉え興味を持ってない
- ◆ **身近な知識を活用できない**
動物の体の仕組みに関連する身近な知識や出来事を生かして取り組むことができない
- ◆ **言動活動が苦手**
自分の考えや意見をうまく表現できない

【目標とする生徒像】

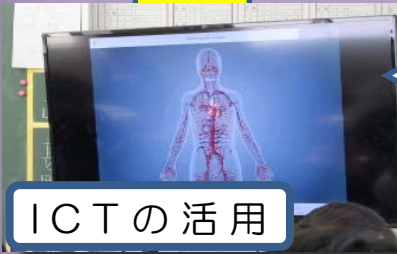
- 実験動物に対する苦手意識をなくし動物の体の仕組みに**意欲的に取り組む**
- 身近な知識を持ち寄り**知識の幅を広げる**
- 自分の考えを**相手に伝えることができる**

視覚的効果の活用

実践例

〈循環器について〉

グループワーク活動



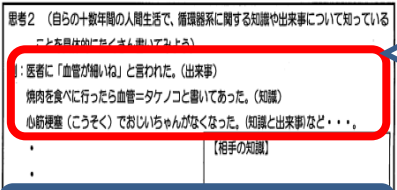
ICTの活用

モニターに循環器を写し循環器が何かを知る



個人活動

個人活動で循環器の必要性や身近な循環器の知識を探る



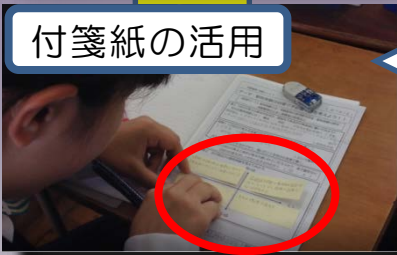
ワークシートの活用

具体例をあげることで、自分の日常生活から循環器に関する知識を考える



ペア活動

ペア活動でお互いの知識や出来事を意見交換し、新しい発見や忘れていた事象を振り返る



付箋紙の活用

付箋紙を活用し、見易くなるように知り得た知識をまとめていく



グループ活動

グループ学習で分からない所を話し合い共有した知識を得る

興味がわき、知識が広がって理解度がup

【成果】

- ・視覚的効果により、循環器を身近なものとして捉えることができたことで、**意欲的に取り組む姿勢**が見られた。
- ・グループワークにより循環器に関する様々な**知識を共有**することで、知識の幅を広げることができた。

【課題】

- ・視覚的効果を活かすための**活用方法の工夫**
- ・効果的なグループワークのための**活動内容の検討**